

H24-D1-2 深度12.38~12.97m 最新活動面の深度 (No.90) を修正

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料1

敦賀発電所2号炉 敷地の地形, 地質・地質構造について

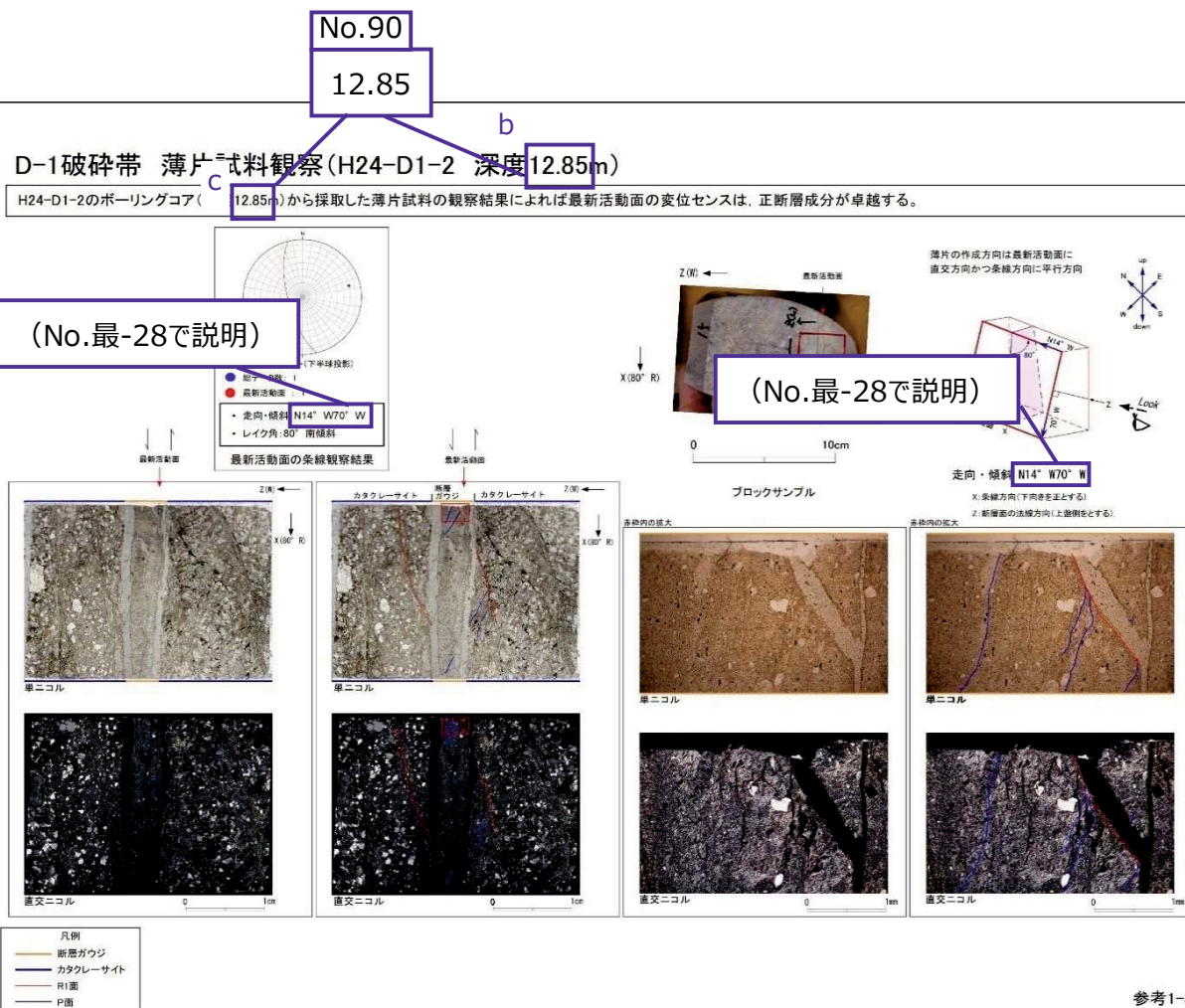
参考資料1 薄片観察結果

参考1-32頁

第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

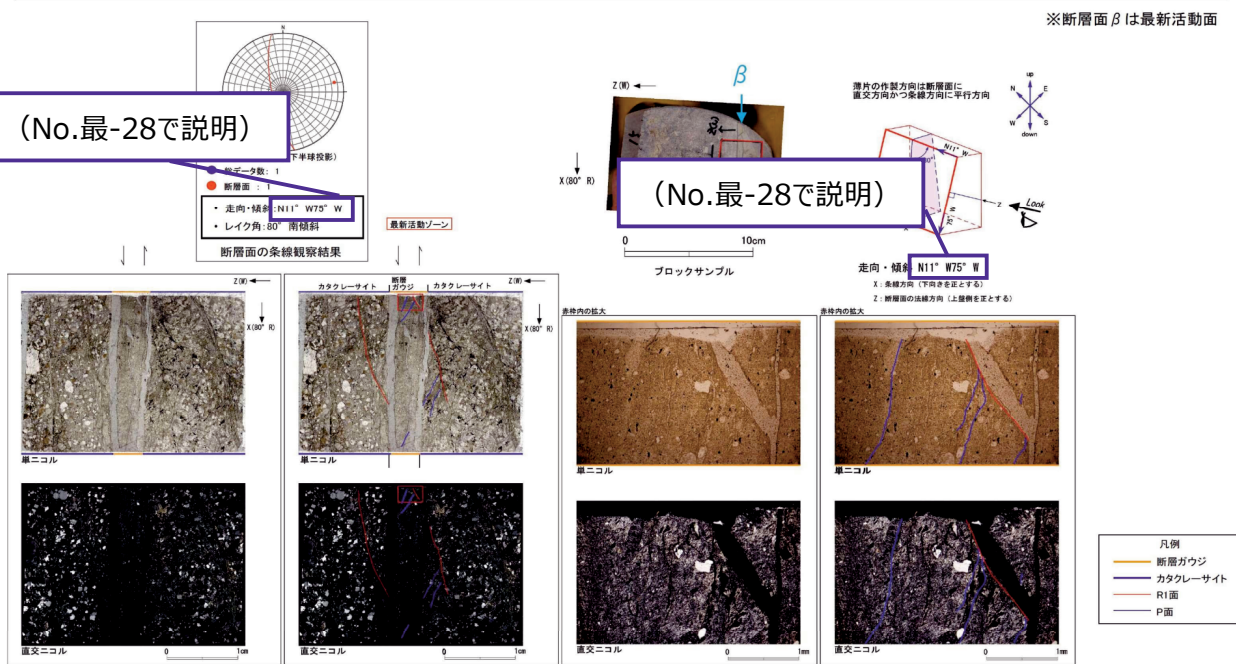
No.90

b (フォーム見直しにより数値の記載なし)



参考1-32

・H24-D1-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば, 最新活動ゾーンの変位センスは, 正断層成分が卓越する。
 ・最新活動ゾーンには, 断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが, カタクレーサイトの特徴は, カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
 > (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
 > (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 > 岩片は少ない。
 > (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。
 > (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。



第7.4.4.316図 (3) 破碎部性状 H24-D1-2 深度12.38~12.97m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))

H24-D1-2 深度12.38~12.97m 断層ガウジの幅 (No.91) を変更

- 従前提示していたデータでは、性状一覧表に断層ガウジの幅を0.9cmと記載していたが、以下のことから、0.5cmが正しい値であるため、0.9cmから0.5cmに変更した。
- コアの再観察の結果、深度12.86~12.87mに分布する断層ガウジの幅は0.5cmであった。
- コア観察カードには粘土の厚さ5mmの記載があり、従前提示していたデータである0.9cmは断層ガウジの区間長を真幅と誤って記載していたと推定される。

断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料 (H24-D1-2 深度12.38~12.97m)

・実測した断層ガウジの幅は0.5cmである。

コア写真



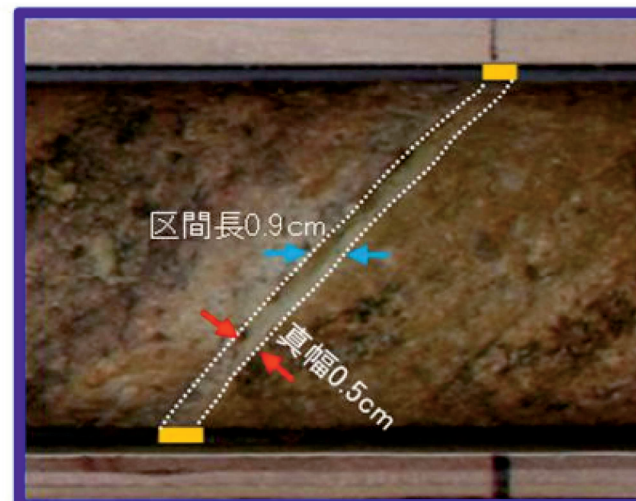
凡例

 断層ガウジ ← → 破碎部範囲*
 ※:写真上は白色で記載



青枠部拡大

0 5 cm



青枠部拡大

0 5 cm

該当箇所のコア観察カード

・12.86~12.87m : Hc-1 (主断面・12.86m)
 上部・下部が45°で、通称的にシアー面に連続する。
 φ10mm前後の石英粒と少量金剛石を伴った灰白~灰黄色(2.5~6/2)粘土で、厚さ5mm

幅の記載

凡例

- ← → : 従前の断層ガウジ幅
- ↔ : 変更後の断層ガウジ幅

H24-D1-2 深度19.78~19.87m 最新活動面の深度 (No.92) の修正

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料 1

敦賀発電所 2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料 1 薄片観察結果

第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

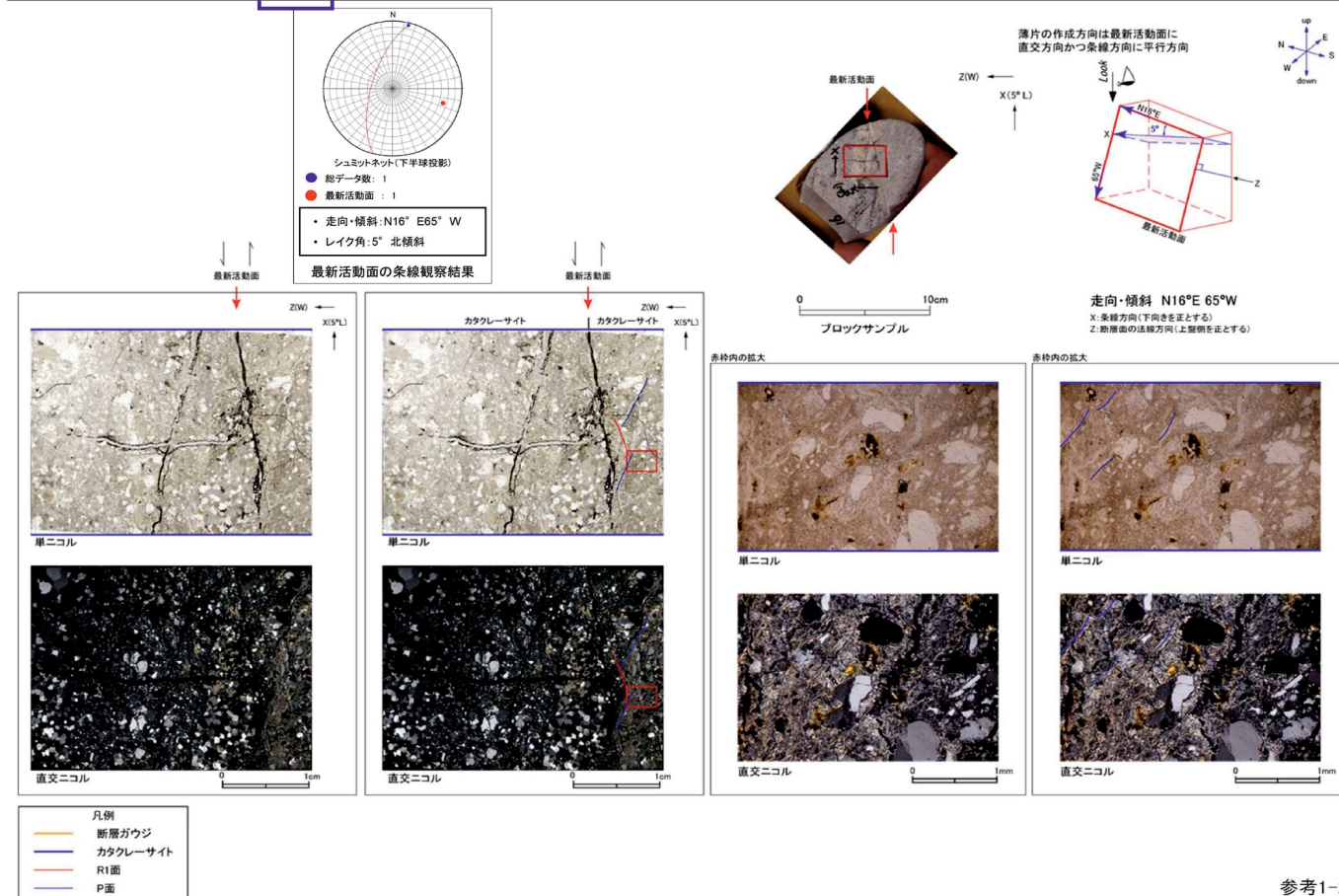
No.92
19.87 m

No.92

(フォーム見直しにより数値の記載なし)

非モデル化破碎部 薄片試料観察 (H24-D1-2 深度19.87m)

H24-D1-2のボーリングコア(深度19.87m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、左ずれ成分が卓越する。

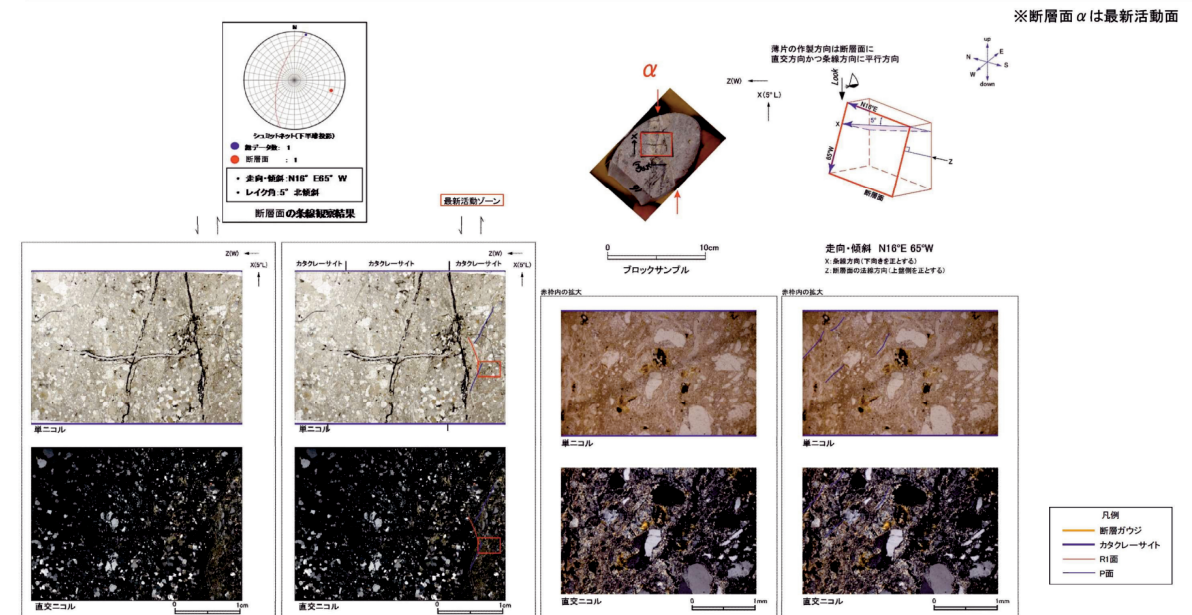


参考1-222

H24-D1-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれ成分が卓越する。
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。

- > (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- > (カタクレーサイト) 断層面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。
- > (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- > (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
- > (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。
- > (カタクレーサイト) 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

6-7-1119



第7.4.4.317図 (3) 破碎部性状 H24-D1-2 深度19.78~19.87m (変位センス, 薄片観察による断層区分(1/3))

1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響

・明瞭なせん断構造・変形構造を有に変更 (No.93)

【理由】コアの再観察の結果，最新活動面に沿った断層ガウジに灰白色，にぶい黄橙色，灰赤色の層状構造が認められるため。

【断層連続性評価への影響】なし

2. 変更箇所

a 明瞭なせん断構造・変形構造を「有」に変更 (No.93)

H24-D1-2 深度31.44~31.46m 明瞭なせん断構造・変形構造の有無 (No.93) の変更

従前

見直し後

第833回審査会合
机上配布資料2
敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について
参考資料2 性状一覧表
参考2-187頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)

15.非モデル化破碎帯
性状一覧表(15/19)

断面番号	深度 (m)	層位 (m)	方位	傾斜 (°)	長さ (m)	性状		備考
						性状	長さ	
②	19.78	19.87	N10E	60W	3.0	-	-	19
③	31.44	31.46	N20W	63W	1.2	a	-	31
④	52.13	52.28	N7E	70W	8.8	0.5	-	52
⑤	52.97	53.46	N41E	50W	34.8	-	-	52
								53
⑥	60.06	60.38	N10E	80W	22.6	0.3	-	60
								61
⑦	63.67	63.90	N19W	89W	7.9	-	-	63
								64

凡例

 1. 断層
 2. 破碎帯

【備考】
 粘土状破碎帯、砂状破碎帯、角礫状破碎帯
 固結した粘土状破碎帯、固結した砂状破碎帯、固結した角礫状破碎帯
 の合計の幅とし、破碎帯の走向傾斜から真の幅に換算した。
 【平滑さ】
 平滑：最新活動面が連続的なもの
 非平滑：最新活動面が断続的なもの

参考2-187

断面番号	深度 (m)	層位 (m)	方位	傾斜 (°)	長さ (m)	性状		備考							
						性状	長さ								
H24-D1-2 (傾斜60°)	①	12.38	12.87	N11W	70W	41.7	有	有	30R	正	-	D-1	12		
H24-D1-2 (傾斜60°)	②	19.78	19.87	N10E	60W	3.0	有	無	-	-	SL	-	正	非モデル化	19
H24-D1-2 (傾斜60°)	③	31.44	31.46	N20W	63W	1.2	有	有	1.2	有	SL	-	正	非モデル化	31

No.93
有

a

※1 断層区分の総合評価に基づき記載し、肉眼「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載
 ※2 斜めボーリングの場合は、計測値を補正した値を記載
 ※3 卓越しない成分については「-」を記載(両成分「-」は薄片観察を行っていない箇所)
 ~ (上記以外) : データを取得していない箇所

凡例

 : 最新活動面 ← → : 破碎幅
 : 断層ガウジ カラーバーが付いていない区間はカタレーサイトを示す
 : 断層角礫